

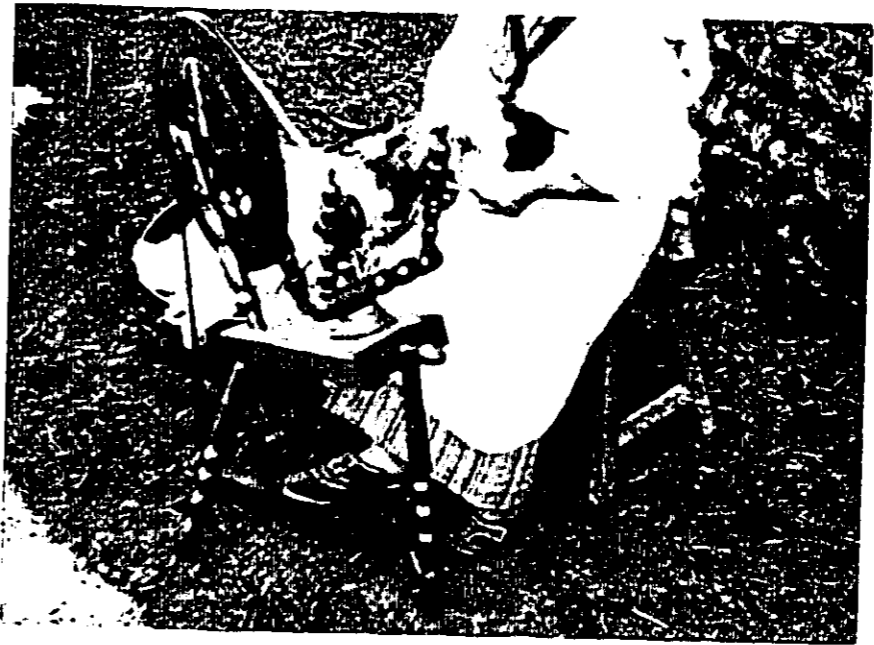


氷の貯蔵

【六七】  
 満洲移住地では冬期間河水も土地も凍結してしまふので、春期解氷前に氷を割り地下室に貯蔵をする。



羊毛紡ぎ



【六六】  
 冬期間の暇な時を利用して保存して置いた羊毛から毛糸やホームパンを作り、ジャケットや或は洋服を作つて着用する。



採 伐

建築用材は冬期に伐採される。之は冬期間の主な仕事であり、國を組んで山中に入る。

【六九】



み 編 蒔



ひ 絢 紐

豊富な稻藁から紐や蒔を編み家屋の敷物とか農業用に使用してゐる。これも冬期間の仕事の一つである。

【六八】



ト  
ラ  
ク  
タ  
ー  
の  
運  
材



馬  
車  
で  
運  
材

道路まで運れた材木は、トラク  
ターに著けた樞に依つて本部へ  
と運搬して行く。

【七一】

伐つた材木は馬車で道路まで運  
搬される。

【七〇】



團 員 家 族

【七三】

移住地では家族招致をすれば子供達の他に老人も混  
つて愈々賑かになり、活氣横溢として洋々たる前途  
に朗かな暮しをしてゐる。



木 材 降 し

【七二】

移住地迄運ばれた材木は其處で降され用途に依つて  
選り別けられる。



餅 搦 ぎ



満  
洲  
式  
井  
戸



【七四】

満洲では冬期間地表が凍つて了ふので、戸外の井戸は満洲式の捲取り型釣瓶でないと不便である。

【七五】

正月には内地の様に門松を立てお飾をし餅を搦いてお祝する。



松 飾 り



可愛い第二世



子福者の集ひ

移住地では可愛い、第二世  
がどん／＼と産れるので好  
い後継者を得て開拓者達の  
喜びは大きい。

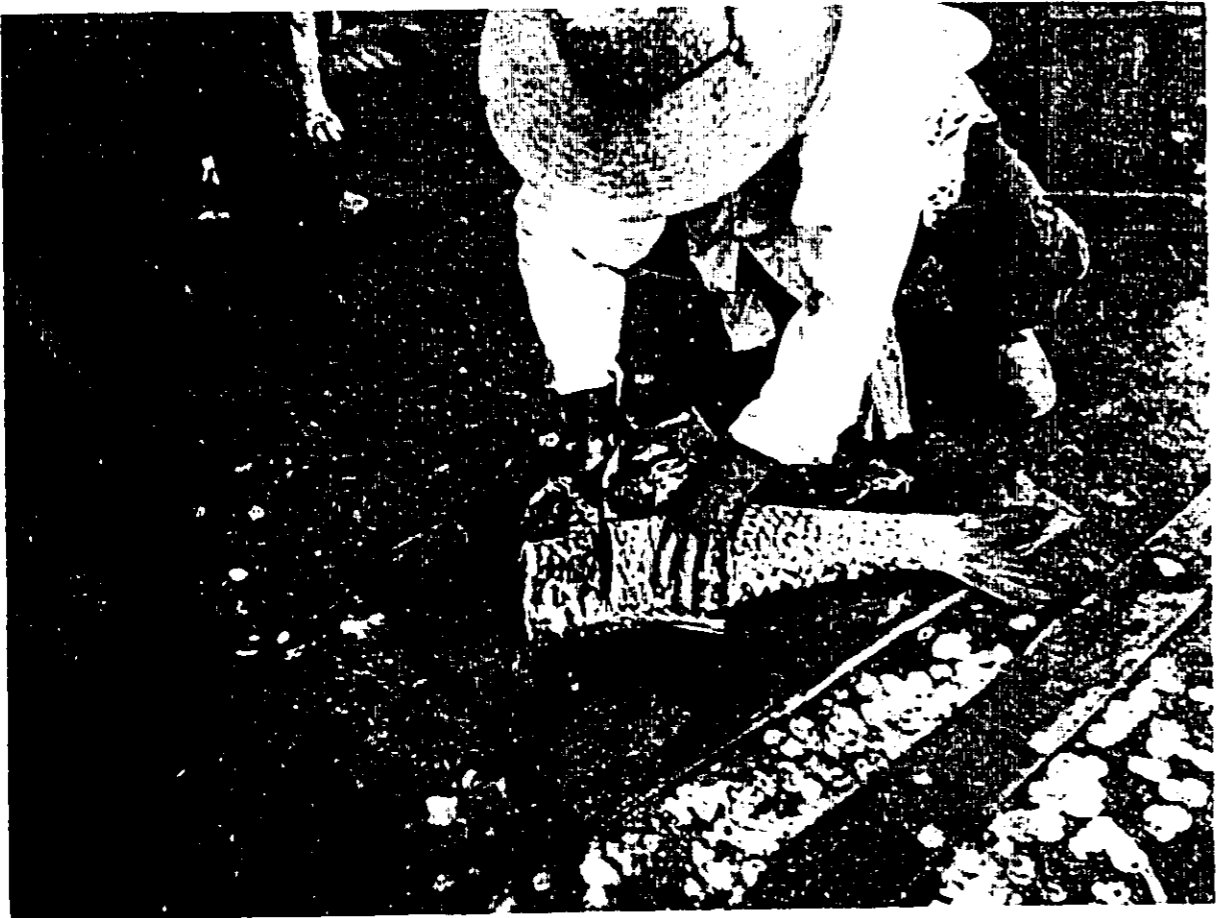
【七七】



産婆さん

各移住地には醫者の外に産婆さん  
が必ず何人かをるもので家族招致  
後は急に忙しくなる。

【七六】



魚 料 理

【七九】

移住地の河川には澤山の魚類が居り、暇々には魚釣りをやり食卓を賑やす。



一 家 團 樂

【七八】

滿洲移住地の家屋は溫突オンブツに依つて暖を採つて居るので、戸外は如何に零下何十度の寒さでも室内は春の暖さである。一家樂しく火爐コッパンで寒さを忘れて居る。



秋祭りの神社参拜



餘興

【八一】  
 一年の勞苦を犒ふ收穫の  
 秋祭りには團員打揃つて神  
 社に参拜し、家族連れで樂  
 しい一日を過す。



樂しき食事

【八〇】  
 一日の勞務が終り一家或は一部落揃つて食卓に着く  
 樂しさは移住地でなくては味えぬものである。





運 動 會 の 婦 人 連

運動會には婦人達も楽しい一日を大青空の下に暮  
す。

【八三】



運 動 會

百花咲揃ふ廣野原で日鮮滿合同の運動會を催すこと  
もある。

【八二】



村の床屋さん

移住地では團員の中で理髪の出来る人が床屋さんになつて團員の頭髪の手入をする。

【八五】



郷土藝術

其他入植記念日等には各部落より夫々お國自慢の郷土藝術が餘興として飛出して来る。

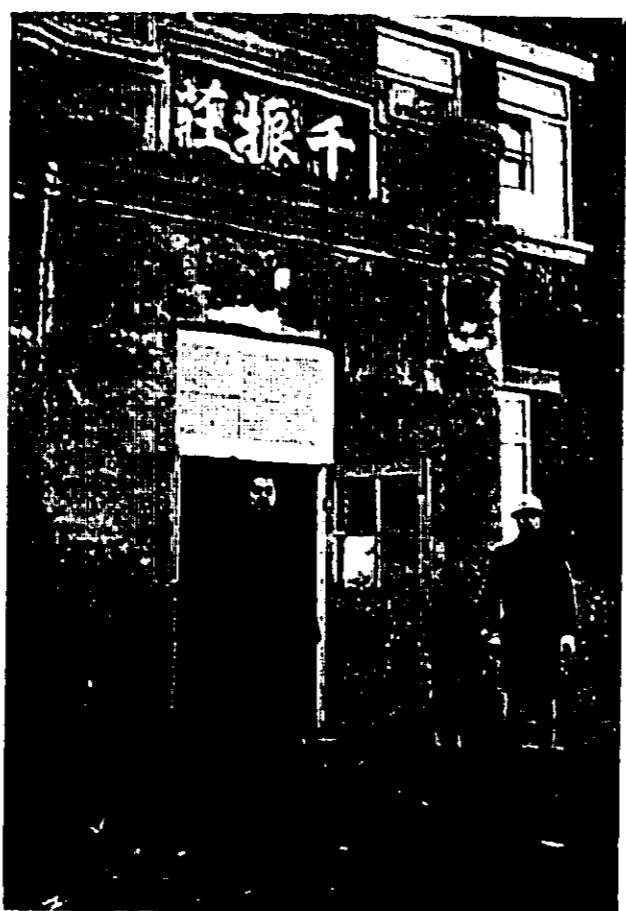
【八四】



移住地の旅館

【八六】

既設移民団では移住地内に團經營の旅館があり、視察者の便を計つて居る。



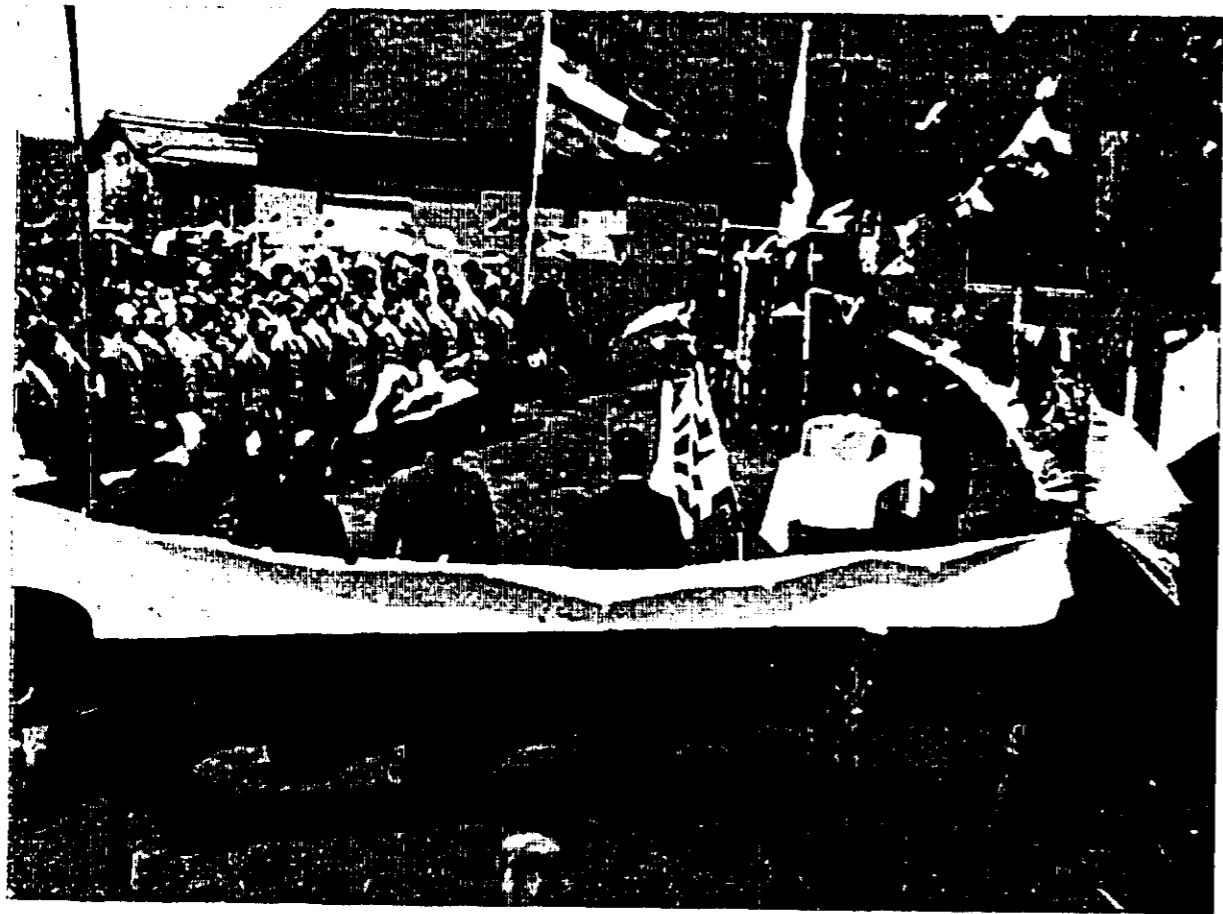
移民團の公會堂

【八七】

移住地には旅館兼用の立派な公會堂を建てた所もある。



寫眞は第二次移民團千振郷に出來た千振荘と其の内部で、疊敷き、ステイム暖房で燈火は電燈を用ひる豫定である。



鴻恩移民に及ぶ

【八九】  
 滿洲事變の餘燼消えぬ昭和七年以降、治安の定らざるにも拘らず、敢然として移住地の開拓に邁進し、賊匪を拒けて治安維持に當つた功績によつて、特に昭和十一年、第一次移民團及第二次移民團の團長以下團員に至る迄、畏くも賜盃又は賜金を賜り、一同鴻恩の有難さに感泣して使命達成に益々勇躍せんことを誓ふた。  
 尙茲に國民が永久に銘記すべきことは、滿洲に於ける我が民族大發展の礎となり、開拓使命遂行の途上に倒れたる移民團員十三名の靈が護國の神として靖國神社に合祀されてゐることである。



敬老會

移住地には家族招致の進むに従つて老人も殖え、敬老會もが産れてゐる。

【八八】

